

「旭陵留学生プログラム」 Newsletter

3月1日(金)、旭陵留学第13期生 小南菜子さん(派遣国:カナダ)が卒業しました。菜子さんからの卒業にあたってのレポートと写真をお届けします。菜子さんは4月から京都で大学生活を過ごすことになっています。

高校生活がついに終わろうとしています。たくさんの人に支えられて、ここまで歩んできました。本当に感謝しています。私にとって、この4年間は

とても充実したものでした。

留学を通して多くのことを学びましたが、大学生になるにあたり、改めて大切にしたいことが2つあります。

1つ目に、日々新しい挑戦を続けることです。カナダでは英語力だけでなく、人間的に成長できたと思っています。それは、ホストファミリーや友達と良い関係を築くために日々挑戦し、努力するなかで培われたのだと思います。私にとって、英語で話しかけたり、家事の手伝いを申し出ることさえとても勇気のいることでした。しかし、自分から行動を起こさないと何も変わらず、10ヶ月を無駄にしてしまうと気づきました。そ

こで毎日小さな目標を立てて生活することに決めました。1つずつ達成し

ていくにつれ、自分の成長を実感し、自信にもつながりました。日常生活に戻った今、自分を甘やかすことは簡単で、1日はあっという間に過ぎてしまいます。大学では限りある時間を有意義に、大切に過ごすため、能動的に新しいことに挑戦し続けたいです。

2つ目に、自分の意見を持ち、自ら発言することです。日本では、協調性が重んじられ、和を乱さないことが重要視される傾向がありますが、それは海外ではまったく通用しないと身に染みて感じました。仲間とともに活動する時、お互いに歩み寄り、協力し合うことはとても大切です。しかしただ同調し合うだけでは、本当に良い関係は築けず、お互いに高め合うこともできないとわかりました。私は大学でデザインを学びます。そこではたくさんのグループワークをします。ものをつくる時、人と協力し、意見を出し合うことで本当に良いデザインができるそうです。大学では、自分の思いを言葉にすることと、お互いに歩み寄ることの両方を大切に、良いものを作る人になりたいと思います。

これまで色々なことがあり、たくさんの人に出会いました。前年度の卒業生、カナダにいる友人、留学後のクラスメイト、部活の仲間、そして

先生方、すべての人たちに感謝してもしきれません。つらいことや嬉しいことを分かち合えたこと、話を聞いてもらえたことが、大きな力になりました。本当にありがとうございました。



卒業式 クラスメイトと

大切な吹奏楽部の仲間



ホストファミリーとの一枚